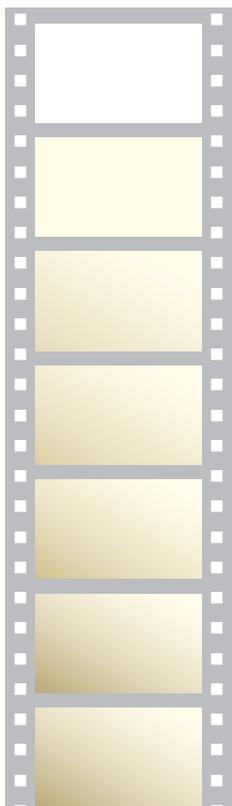


伸<sup>ノブ</sup>さんのシネマトーク

鈴木 伸夫





### 第三回 「番組は30分から60分西部劇へ」

当時の新聞に掲載されている番組表（タイムテーブル）には、30分以上の長いテレビ番組がありません。また、午後の時間帯は夕方までテレビ放送が休止になっています。

テレビが放送を始めた頃は、白黒の映像がまだ不鮮明のうえ、夜は部屋の電灯を消し、真つ暗にして小さなブラウン管の前で長時間視聴していました。これは眼を疲れさせ、眼に悪い影響があるとも言われました。

しかし、アメリカから輸入する連続テレビ映画のシリーズは、一ワンエピソード話30分と決められていたので、30分を超える番組はありませんでした。そして、民間放送は営業面のことも考えねばなりませんでした。また、当時の30分番組は、「ローンレンジャー」「拳銃無宿」「スーパーマン」「サーカスボーイ」「名犬ラッシー」「名犬リンチンチン」など、内容も子ども向きの作品が多く、大人たちにとって長編アダルトトゥエスタントの本格的西部劇の放送が待たれていました。そこへ登場したのが、2本の60分西部劇です。



ララミー牧場

作曲 シリル・J・モックリツジ

作詞 ビル・オーラフソン

訳詩 井田誠一

唄 デューク・エイセス

ララミ〜ララミ〜

草は青く

山、遠く

ここは西部の大草原

たそがれの牧場に

昇る朝日、懐かしや

おれはカウボーイ

ラ・ララミー

ララミー



ローハイド

作曲 デイミトリ・ティオムキン

作詞 ネットド・ワシントン

唄 フランキー・レイン

モーモー（牛の鳴き声）とともに

ローレン・ローレン・ローレン（合唱）

行け！行け！行け！

進め！進め！進め！

思い通りにならなくても

犬たちを行かせる！

ローハイド！！

理解しようなどと思っな！

ロープを投げる！

焼き印を押せ！

(以下 略)

すぐにいい暮らしができるさ！

(以下 略)

「ララミー牧場」は、原題が「ララミー」（地名です）。アメリカ、ワイオミング州・ララミー郊外のシャーマン牧場を舞台に、牧場の兄弟一家と流れ者で甘いマスクのガンマン、ジェフ・ハーパー（ロバート・フラー）をめぐる友情と正義を描いた物語です。日本語吹き替えで放送されましたが、流れ者のジェフに扮したロバート・フラーに人気が集まりました。その声を洩い声でア・テ・レ・コ（アフターレコーディング、ア・フ・レ・コ）をもじって作ったことばで声の吹き替えのこと。ア・テは音や声をあてはめ、レ・コはレコーディングのこと）したのが、日本のテレビドラマ、スター第1号の久松保夫でした。久松は、四代目の江戸っ子で（親子三代以上続けば、江戸っ子）ディレクターと打ち合わせて、あえてジェフにべらんめえ口調（江戸の下町で主に職人たちなどの間に用いられ、威勢のいい荒っぽい口調のこと。）でア・テ（吹き替え）てみました。最初は、実年齢40才の久松と26才のフラーとでは不自然でした

が、放送するうちに視聴者の耳にも慣れ、やがて、べらんめえ口調が番組をヒットに導く要因にもなりました。でも、ぼくの記憶によるその口調は、どすが利いて、例えば、東京にいる江戸っ子のおじさんに叱られているような感じがしたものです。今でも耳をすませば、50年以上前に聞いたあのジェフ（久松保夫）の口調が懐かしくよみがえります。久松保夫はテレビ俳優としてだけでなく、「ララミー牧場」でアテレコ俳優、いわゆる現代の「声優」としても大好評を得たのです。（続）

（文中敬称略）

伸

（平成22年8月）